

日本人女性の会話に見られる話題転換の構造について

Topic Shifting Devices in Japanese Native Speakers' Conversation

笹川 洋子*

SASAGAWA Yoko

話題転換は先行話題の終了部と新話題の導入表現から分析されるが、本稿ではこれに話題展開の過程を含め、より大きな視点から話題転換を考察した。日本人女性の会話データ（6組計120分）を観察し、「所属するサークルを尋ねる質問」の話題転換への影響を、話題転換が起きた事例と起こらなかった事例から探った。同じ言語形式の話題導入表現が様々な機能を担い、また話者の話題領域の意識が話題展開に関わっていた。

日本人女性 対面会話 話題転換 話題導入表現 話題領域

1 はじめに

私たちはおしゃべりをごく日常的に楽しむが、これを言語現象として分析することはさほど容易ではない。例えば、話題一つとってみても、話題をどのような単位でとらえるかには、様々な考え方がある⁽¹⁾。しかし、その一方で私たちが日常会話で話題が変わるという場の雰囲気を感じているのも事実である。こうした身体的な経験を言語化するために、本稿では話題転換の場面を分析し、話題転換の構造について考えてみたい。

話題転換部は、先行する話題の終了部があり、続いて新しい話題が導入される一連の過程と考えられる。先行研究では、話題転換を先行話題の終了部と新しい話題の導入表現から分析する（南不二男、1981、West C. & Garcia A.、1988、楊虹、2005他参照）。しかし、実際の会話を観察すると、話題転換という現象はそうした端的な枠組みではとらえきれない、複雑な様相を見せる。例えば、会話では新しい話題が導入される時、もう一方の話者がそれに応じ、共有された話題が展開していく事例に加え、一方の話者がその話題を受け入れなかったり、前の話題に話を戻す例がある。さらに、意味がうまく伝わらず、その説明をする会話の修復が挿入される等の場面も見られた。先行話題の終了部と話題導入表現だけでなく、受け手の応答を含め、その後の話題展開が話題転換に大きく影響していることがわかる。

つまり、会話は現在から未来へという時間軸の方向で進むが、話題転換後に起こった言語行為は、会話の参加者たちの話題領域の認識を変容させ、次に起こる話題転換に影響するだけでなく、既に規定された話題領域に遡及し影響を与えるのである（「会話例1」参照）。したがって、話題転換の構造を探るには、前の話題がどう終了し、続いて新話題がどう導入され、話者はそれをどう受け入れ、共有していくか、先行話題からの転換と新しい話題の展開を含めた一連の言語行為を観察する必要がある。

本稿では、日本語母語話者である初対面の日本人女性（9名）の対面会話における⁽²⁾、話題転換の過程と構造を探るが、ここでは「相手の入っている大学のサークルを尋ねる」という共通の質問が、相手の反応の違いによって、どのように話題転換の構造を創り出すかをみる。なお、話題転換の動的な変容をとらえるために先行話題の終了、新しい話題の導入、そしてその話題の終了に至る一連の過程を分析することにする。

まず、話題転換を扱った先行研究を整理し、本稿の視座を確認する。次に、会話事例を確認し、日本人女性の会話における話題転換の構造を探りたい。

2 話題転換のとらえ方

本節では、話題の終了部に関する先行研究、次に新話題の導入を扱う先行研究を整理し、最後に問題

* 本学大学院教育学専攻教授

の所在について確認したい。

2・1 話題の終了部について

West, C. & Garcia, A. (1988) は、話題転換を先行話題の終了部における協働作業の有無により、「協働的転換」と「一方的転換」に分類している。参加者双方により、話題の終了が確認され、次の話題が導入されるのが「協働的転換」で、どちらか一方の話者により先行話題の終了が確認される、あるいは特に話題の終了が確認されない場合が「一方的転換」である。中国語及び日本語の母語話者同士の会話場面を分析した、楊虹 (2005) は、West & Garcia (ibid.) の一方的終了のうち、突然話題が終了するものを突発的終了とし、話題転換を、協働的終了、一方的終了、突発的終了に分類し直し、日本語話者の会話と中国語話者の会話を分析している。楊 (ibid.) は日本語母語場面では、協働的終了がもっとも基本的な話題終了のパターンであるのに対し、中国語母語場面では、基本的な話題終了のパターンは見られないとしている。今回のデータでも日本人女性は協働的に話題変換を行っている。

こうした話者による協働作業は、実際の会話では言語表現として顕在化する。すなわち、スムーズな話題転換では、会話の参加者が先行話題を終了することを確認しあい、合意した上で、新しい話題が導入されると言われる。日本語会話の分析では、話者どうしが合意する方法として、相づちの連続、まとめや評価をする表現を用いる、沈黙、繰り返し、笑い等があげられている (メイナード泉子、1993、村上恵・熊取谷哲夫、1995、中井陽子、2003、楊、2005他参照)。また、英語の母語話者による会話でも、発話権の譲渡 (相づち)、最小限の応答 (連続する相づちや笑い)、先行話題のまとめ・評価表現が話題を終了させる役割を果たすということが明らかになっている。本稿のデータでも先行研究で指摘された言語表現が頻繁に観察された。

さらに、前の話題との結束性という視点からみると、話題転換は前の話題と関連性をもつ連続型の話題転換と、まったく関連のない新しい話題が導入される非連続型に分けられる (南、1981、楊、2005他参照)。村上・熊取谷 (1995) は、この話題の連続性、非連続性をポーズ (沈黙) によって分類し、日本語の母語話者三人で交わされる会話における話題転換を、特にポーズが置かれず話が続けられる継続型、ポーズを介する断絶型、さらに第三者が二人の対話に割り込む、割り込み型に分ける。なお、本稿

では二人の話者による対面会話をデータとするため、第三者による話題の割り込み型は見られなかったが、会話の修復部や現場指示描写に話題の割り込み現象が見られた⁽³⁾。

また、日本語会話では沈黙による話題転換が多いことを日英母語によるビジネス場面での会話を観察した Yamada (1989) は指摘している。そして、話題終了に関して、英語母語場面では、話題が明示的に終了されることにより会話が直線的に進むが、日本語母語場面では、明示的な表現で話題終了を示さないことや、相づちの使用が少なく、長い沈黙が多いこと等により、話題が明示的に終了されず、いつでも前の話に戻ることができるという循環型の会話の進み方が見られるとしている (楊、ibid., 参照)。本稿のデータでは「会話例1」と「会話例5」で一方の話者が先行話題を進行中の会話の枠組みとして意識しており、その結果先行話題に戻るといった循環型の現象が見られる。ただし、「会話例5」では終了部がはっきり明示されないが、「会話例1」では終了部が明示された上での循環型の会話であり、それは話者の話題領域の認識に左右されるものであった。

2・2 新しい話題の導入について

次に、新しい話題を導入する話題転換表現を見よう。

楊虹 (ibid.) 等は、話題転換表現を言語形式面から分類しているが⁽⁴⁾、本稿では、話題導入表現が話題展開においてどのような機能を果たすのを探るため、部分的な言語形式ではなく、言語表現全体を含む言語行為として話題表現をとらえる。言語機能から話題転換表現を整理したものに小田切由香子 (1997) がある。小田切 (ibid.) は、話題転換表現を7つに分類している。①相手の話を促進する質問、②共通点をめざした質問、③相手と共有できる情報の提示、④共有できる可能性のある情報提示、⑤自己情報の提示、⑥ (自分の) 気持ちの説明、⑦会話からの脱線である。

本稿では、会話データに共通して現れた「相手の所属サークルを尋ねる質問」に注目し、同じ言語形式と内容をもった言語行為の機能がコンテキストによってどのように変化していくかを探るが、この質問は、コンテキストにより小田切 (ibid.) のいう「①相手の話を促進する質問」、あるいは「②共通点をめざした質問」と話題転換機能が変化していた。

2・3 話題転換の構造について—問題の所在

ここまで、話題転換に関する先行研究を概観してきたが、先行話題の終了部と新しい話題の導入表現を観察するだけで、話題転換の構造は明らかにできるのであろうか。実際の会話データを見ると、話題転換は部分的なものではなく、より大きな話題の認知枠組みを変化させる動的な過程であることがわかる。ここでは、話題の終了部、話題の導入及び展開部、さらに話題の話者領域の視点から「会話例1」を観察してみよう。

(1) 話題の終了部と話題の導入・展開部、

「会話例1」⁽⁵⁾では、日本人女性JF1とJF7が就職活動について話している。JF1は(01・03JF1)で就職活動を終えた先輩に話を聞いたほうが良いと言いながら、でも自分は1週間ぐらいして忘れてしまったとつけ加える(07・09・11JF1)。二人の会話では合意を確認する表現や相づちが交わされ、沈黙(・)が現れる(13JF1~16JF7)。典型的な話題の終了部である。

そして、JF7は「えっサークルとか何か(・)入ってたんですか(18JF7)」と新しい話題を導入しようとする。しかし、JF1は「だから先輩がいなくて同じ学校に(22JF1)」と話を進め、JF7は「(・)うん?(23JF7)」とJF1の発話意図を汲みかねて驚く。しかし、その後サークルに就職活動の助言をもらえる先輩がいなかったという話が続き、JF1の話をまとめる発話「先輩なんかの話も聞けなかったし(50JF1)」で、JF1が先の発話で先行話題に戻ろうとしていたことがわかる。JF7はJF1の先行話題に戻る話の流れを受け入れ、「あーなるほどなるほど。うん(49JF7)」と応じている。

この会話では形式的には<1 先行話題の終了部>がはっきりと現れ、「所属するサークルを尋ねる質問」によって、新しい話題の導入が試みられる。しかし、それは成功せず、この質問への応答は「話を聞ける先輩がサークルにいなかった」という、終了したはずの先行話題に結び付けられる。再び持ち出された先行話題についてしばらく話した後、話者は「あーなるほどなるほど(49JF7)。うん」「先輩なんかの話も聞けなかったし(50JF1)」と、話した内容をまとめ、再び話題を終結させていく。

このように、話題の転換部は、話題導入の言語表現から考えるだけでなく、先行会話がどう終了し、どう話題転換し、選ばれた話題がどう展開していく

か、コンテキスト全体から観察することが必要であろう。

(2) 話題の話者領域

会話例ではほとんどJF1側の話題領域に属する話題がとりあげられている。新しい話題導入として試みられたJF1の所属するサークルを尋ねる質問はJF1側の話題領域に属するものである。このため、JF1は自分の話題領域内で話題を移行させたことになり、相互行為の協調性を破るような言語行為にならなかったと解釈される。本稿では、この話題の話者領域を従来の話題転換をとらえる視点に加え、話題転換を考えていく。なお、言及した言語表現について次のように記述した。

話題領域：例 JF1：側の話題領域
サークルを尋ねる質問：

「会話例1」
<1 先行話題の終了部：先輩に就職活動のことを聞くといい>
JF1側の話題領域
01JF1: でも就職活動終えた先輩とかにー ほんとその直後の
02JF7:
03JF1:=ねえ感想とか聞くのいいかもしれないけど
04JF7: そうですねえ
05JF1:(・)うん uhuhuhuhhhh でなんか終わって
06JF7: そうかーuhuhuhuhhhhいやっー
07JF1:=しまうとねえ ほんと終わって1週間ぐらいは
08JF7:
09JF1:たくさん話すことがあるよって言ってただけど今と
10JF7:
11JF1:=なってしまっはっていうhhh けっこう忘れちゃてる
12JF7:
13JF1:=部分もあって うん(・)うん(・)
14JF7: 確かに。んー
15JF1: (・)ふーん
16JF7:そっかー
<新しい話題「JF1のサークル」導入の試み>JF1側の話題領域
17JF1: サークルは
18JF7:えっサークルとか何か(・) 入ってたんですか
19JF1:他大に入ってた
20JF7: ふーん
<「先行話題1」の流れに戻る> JF1側の話題領域
22JF1: だから先輩がいなくて同じ学校に ほとんど
23JF7: (・)うん?
24JF1: (・)うん あーあっ

- 25JF7: あーイン、インカレの っってことですか
 26JF1: 他大学ののに行っちゃってたから
 27JF7: =じゃなくて他大学の
 28JF1: だから オークストラをやってる
 29JF7: あー えっ何なさってたんですか
 30JF1: =んですけど hhhすごくないんだけどhhh
 31JF7: あーすごーい
 32JF1: うん だから(・)全然先輩が学年に一人とか二人くらい
 33JF7: へえー
 34JF1: =しかいなくて あたしの一つ上の先輩は
 35JF7: はんんん
 36JF1: こともあろうに留学をしていて、あたし達と一緒に
 37JF7: うん
 38JF1: 就職活動だったからhhh 全然もう関係なくて
 39JF7: hahhhあちゃー あちゃー
 40JF1: hhhhで他は(・)あんまりまともに就職したっていう人が
 41JF7:
 42JF1: =いなくて、ウチの大学の人でずいぶん前とかだったら
 43JF7:
 44JF1: =いるんだけど、あと大学院で数理学科とか全然関係なく
 45JF7:
 46JF1: =なっちゃうから うん
 47JF7: 確かに(・)へえー
 48JF1: {???}とかhhh
 49JF7: あーなるほどなるほど。うん
 50JF1: 先輩なんかの話も聞けなかったし
 51JF7: うん

例 サークルに入ってたんですか

それ以外の話題導入表現: 例 えっ(・)楽器は

話題の終了部: 例 確かに。んーうん(・)うん(・)

その他の引用表現: 例 あそうかじゃ知らないか

3 会話事例にみられる話題転換

会話における話題転換の構造を探るために、大学生どうしの会話に現れた「大学のサークルに入っているか」という話題導入の質問に注目する。そして、それが会話の話題転換にはたす機能を会話事例から観察していきたい。なお、話題を統合的な大話題、大話題の下位話題である小話題とし、それぞれの話題がどちらの話者の話題領域になるかを設定し、分析を進める。

3・1 話題転換がされた事例

まず、相手の所属するサークルを尋ねる質問が話題転換に結びついた会話例を検討する。話題交換が見られた例として「会話例2・3」を、話題が共有され、話題展開が起こる例として「会話例4」をとりあげる。

3・1・1 話題交換が見られる会話例

「会話例2」

(1) 話題の終了部

「会話例2」では先行話題「マスコミに人気がある」という先行話題に対する感想・評価の表現、笑い、相づちが交わされ(01JF7~06JF2)、話題が終了する。先行研究に添う明確な終了部である。

(2) 話題の導入・展開部

ここでは「サークルを尋ねる質問」が話題を導入し、話題転換を行う例を見ることができる。先行話題の終了部に続いて、JF7が「サークルとか入っていないんですか(07JF7)」という発話で相手のJF2が所属するオーケストラの話題に転換する。ここでは「オーケストラ」という大話題の下で話が進められていく。そして、話者たちは15JF7の発話でW大のオケが大変そうという感想を共有する話題に移行する。次の小話題でも、JF2の弾く楽器や音楽について簡単な感想が交わされる。その後JF2は「部活は何やってるの(38JF2)」とJF7に尋ね、話題交換が行われる。なお、この質問は<3JF7の部活>という大話題を導入しており、先に<2①新話題「JF2のサークル」の導入>の話題導入を行った「サークルとか入っていないんですか(07JF7)」というJF7の質問と対をなしている。いくつかの話題をはさんで、話題交換が行われていることがわか

「会話例2」

<1 先行話題: マスコミに人気がある>

共通の話題領域

<マスコミは大変そうだが、面白そうという話が続く>

01JF7: 先輩とかってもうなんかいいおんな系っていうのかな

02JF2:

03JF7: なんかカッコイイっていう感じの人で(・)タバコ

04JF2: うん

05JF7: =スパッっていう感じだし ああhhhなんか

06JF2: hhh

へーんーあー

<2①新しい話題「JF2のサークル」の導入>

JF2の話題領域

07JF7: サークルとか入っていないんですか

08JF2: サークルはあの

09JF7: あーそれがJ大と一緒に

10JF2:オーケストラをやっている そう
 11JF7:
 12JF2:I大と一緒にいうかI大のオーケストラなんですけど
 13JF7:他の大学から入れるという ふーん
 14JF2: そお
 < 2②W大のオケは大変そう > JF7の話題領域
 15JF7:なんか私の友達で(・)やっぱりオーケストラやってる子が
 16JF2:
 17JF7: いてW大のオーケストラうーんけっこう大変そう見てて
 18JF2:
 19JF7: いや
 20JF2: W大オケはけっこう大変そう。その分レベルが高いけど
 21JF7:オーケストラどこも大変なんじゃないかな。ほんとに
 < 中略: JF2は自分の所属するオーケストラは楽だが、W大は人数が多く大変だと話す >
 22JF7: ふーん あっそうなんだ
 23JF2: W大オケって うーん(・)大変だよな
 < 2③JF2の弾く楽器と音楽 > JF2の話題領域
 25JF7: えっ(・)楽器は あー いいなあ
 26JF2: 私はバイオリン うーん
 27JF7:私もなんか一時期は なんかもう(・)すごい(・)
 28JF2:
 29JF7:洋楽とかにこってたんなんですけどお 最近クラシックもいいな
 30JF2:
 31JF7:=とか思い始めて んーでクラシックとか聞かれるんですか
 32JF2:
 33JF7: やっぱ聞いたらクラシック
 34JF2:そう(・)ね。いちばんおおー いかもしれないね。
 35JF7: うんうん
 36JF2:あまり音楽聞かないんだけど
 < 3 JF7の部活 > JF7の話題領域
 37JF7: 私はもう
 38JF2: どん、ん、こ、え、部活は何やってるの うん
 39JF7:もう行ってないんですけど 最近(・)広告研究会
 40JF2:
 41JF7:っていった(・)けっこうなんか・・・

る。

(3) 話題の話者領域

会話では、「共通の話題領域」「JF2の話題領域」「JF7の話題領域」「JF2の話題領域」「JF7の話題領域」と話題領域の交換が頻繁に行われている。

「会話例3」

(1) 話題の終了部

「会話例3」でも、先行話題の終了部で評価・同意という発話が交わされる(05JF9~08JF5)。なお、協働的課題転換の興味深い場面として、小話題の終了部で二人が一つの発話を作りあげる共話が観察される(36JF9~40JF9)。「36JF9:自分のない世界だからすばらしいかと思ったんですけど」という発話(JF9)に、別の話者(JF5)が「39JF5:友達の知らなかったような一面を見たような」と発話を続け、最後にJF9が「38~40JF9:おうおうって感じで、その人を見る目が変わったりしましたけど」と発話を結ぶ。

(2) 話題導入・展開部

先行話題の終了部に続いて、所属サークルを尋ねるJF5の質問「サークルって何かやってるんですか(10JF5)」があり、話題導入を行う。そして、その直後にJF9が「何やってらっしゃいます?(15JF9)」という発話で話題導入を行っている。「会話例2」では、この相手の情報を尋ねる質問は、「2 JF2のサークルの話題」、小話題、「3 JF7のサークルの話題」とそれぞれの大話題の導入につながったが、この「会話例3」では、会話はそれぞれの所属するサークルの話ではなく、<他大学の学生が参加できるサークル(21JF5~31JF5)>、<W大の演劇サークルの話(32JF9~41JF5)>へと「サークル」をめぐって派生的に広がっていく。このように同じ話題導入表現も様々な話題展開の型に結びつくことがわかる。

(3) 話題の話者領域

<JF9のゼミ合宿の話題>から、サークルという大

「会話例3」

< 1 先行話題: JF9のゼミ合宿の評価 > JF9の話題領域

01JF9:

02JF5: そう、だからゼミ合宿に憧れてるんですけどhhh

03JF9:ゼミ合宿どうでしょう(・)なんかどうなんだろ

04JF5:

05JF9:楽しいと言えば楽しいんですけど、お金がかかります

06JF5:

07JF9:=から、とにかく

08JF5: あっそうですね

< 2 サークル① J F 9 のサークル> JF9の話題領域

09JF9: サークルは

10JF5: サークルって何かやってるんですか

11JF9: =テニスです。やってるといふかやってたといふか

12JF5:

13JF9: よくわかんないですけど()

14JF5:

< 2 サークル② J F 5 のサークル> JF5の話題領域

15JF9: 何やってらっしゃいます?

16JF5: 私あの一プラスバンド

17JF9: T女大のですか

18JF5: =やってて、やってるんですけど

19JF9: ああ

20JF5: T女大にはないんで、T大にいてるんですよ。そう()

< 2 サークル③他大学の入れるサークル> JF9の話題領域

21JF9: あそう

22JF5: でそのサークルにもW大の人が来てるんですけど

23JF9: =なんですか() えーサークルなんてなんかうちの私が入っ

24JF5:

25JF9: =てるとこはW大しか入れないサークルにしたんですよ

26JF5: へー

<中略: JF9は他大学と交流できるサークルが羨ましいと話す>

27JF5: そっかじゃ他大の人とはあんまり知り合う機会がない?

28JF9: そうですね。やっぱり() バイトとかでしか知り合わない

29JF5:

30JF9: ですよ

31JF5: はー

< 2 サークル④W大の演劇サークル> JF9の話題領域

32JF9:

33JF5: そのW大の何だったけかな() オムニ、オムニバスとか

34JF9: あーあーあーはいはい

35JF5: ミュージカルやる

<中略: 二人はW大の演劇サークルを見たことがあると話す>

36JF9: 自分のない世界だからすばらしいとか思ったんですけど

37JF5:

38JF9: おうおうっ

39JF5: 友達の知らなかったような一面を見たような

40JF9: て感じて、その人を見る目が変わったりしましたけど

41JF5:

< 2 サークル⑤ J F 5 の楽器> JF5の話題領域

42JF9: プラスバンドは何の楽器やってるんですか

43JF5: 私あのホルン

44JF9: 肺活量が必要じゃないんですか

45JF5: をやってるんですけど

話題が展開し、「サークル」という大話題での中の小話題の交換になっている。< 2 サークル②JF5のサークル (JF5の話題)>、< 2 サークル③他大学の入れるサークル (JF9の話題)>、< 2 サークル④W大の演劇サークル (JF9の話題)>、< 2 サークル⑤JF5の楽器 (JF5の話題)>と話題の話者領域が交替する。

3・1・2 話題が共有され、話題展開が起こる例 「会話例4」

(1) 話題の終了部

この会話では「16JF6:サークルとか何やってるんですか」という発話で、大話題に転換するが、先行話題の終了部にはあいづちや沈黙、笑いの交換などが起こらない。しかし、この終了部には長い共話が見られる(01JF9~14JF6)。連続する共話の最後の部分でJF6がJF9の話を受け「そうそうそんな話ばかりみんな怖いくせにやって」と言い、JF9はそれを続けて「やって、それからドライブ行っちゃったりするから、すっごい怖くて暗闇の中で何が出てくるかわかんないからドキドキっていう感じ。ねえ」と発話を結ぶ。

また、< 2 サークル②共通の知人NとMの話>の終了部では、先行話題の終了部の表現「26JF6:=グリーンしか知らないんですけどhhh」に呼応するように、「40JF6:そうかグリーンしか知らないのにすっごい偶然だなhhhh」という表現が繰り返される。さらに、小話題中の「36JF6:=今度幹部になるって聞きました」を受けるように、「41JF9:うーんあーMちゃんそー幹部なるとか」「42JF6:ええええ幹部なる」と繰り返しの共話があった直後に、新しい話題が導入されている。一文を作る言語行為も繰り返しという言語行為も協働作業としての共話である。終了部は、話者がその話題について十分に話したと合意をする過程だが、こうした共話の直後では、特に沈黙や相づちのやりとりをはさまず、大きな話題転換が起こっていた。

「会話例1」のように沈黙や相づち交換のような明確な会話終了の区切りがあっても、話題転換が起

こらない例もあるが、「会話例3」やこの「会話例4」では共話により、話題が終了し、話題転換が起こっている。日本人の会話における話題転換をあつかった先行研究では、沈黙が話題転換に見られることが多いという知見が示されていたが、ここであつかった会話データでは多様な話題の終了の方法が観察された。

(2) 話題導入・展開部

先行話題の終了部に見られる共話の直後に「16JF6: サークルとか何やってるんですか」という表現が用いられ、先行話題とは結束性のない大話題を導入する。ただし、他の会話例とは異なり、この会話例ではこの発話と対になるJF9側のサークルを尋ねる質問がなく、したがって話題交換が起こらずに、会話が進む。これは、会話が進む中で、JF6も別のテニス・サークルに入っていることがわかってくるためである。話題は、「2②グリーンにいるJF6の知人」、「2③井の頭公園でのテニス練習」、「2③グリーンのダンスパーティー」と、大話題の「JF9の所属サークルグリーン」をめぐり次々と展開していく。この二人の話者にとって「所属サークルを尋ねる質問」は、二人の共通話題を引き出すものになっていることがわかる。

(3) 話題の話者領域

この二人の会話の特徴は一つ一つの話者が長く続

「会話例4」

<1 先行話題の終了> 共通の話題領域

01JF9:

02JF6: お化けが出る話とか車の中で聞くの嫌ですよええhhh

03JF9: ねーそーねー

04JF6: やめてくださって感じ

05JF9: () なんか () ちょうど () お化け怪談話してて

06JF6:

07JF9: 夏とかってやっぱ怪談ばなし

08JF6: そうそうそんな話ばかり

09JF9: やって、それからドライブ行っ

10JF6: =みんな怖いくせにやって

11JF9: =ちゃったりするから、すごい怖くて暗闇の中で何が

12JF6:

13JF9: =出てくるかわかんないからドキドキって感じ。ねえ

14JF6:

<2 サークル①JF9のサークル> JF9の話題領域

15JF9: テニス 一応

16JF6: サークルとか何やってるんですか テニスで

17JF9: W大の

18JF6: あの() W大の 有名な() ヤツですか? 大きいヤツ

19JF9: あーあ大きいヤツです

20JF6: ですか? あのー10、10部だけ

21JF9: あー12大です はい えっグリーンってどこ

22JF6: 12大 何ですか

23JF9: =ご存知ですかhhh

24JF6: なんかーあたしが12大サークルの中で

25JF9:

26JF6: =グリーンしか知らないんですけど hhh

<2 サークル②共通の知人NとMの話> 共通の話題領域

27JF9: 何で知ってるんだろ

28JF6: あたし友達が一人入ってるんですよー

29JF9: あっグリーンに入ってるの? 誰ですか

30JF6: ええ2年生で なんか

31JF9: えっとうか去年までは

32JF6: =けっこうサークル出てる方ですか

33JF9: =出てたから。2年生ぐらいなら多分

34JF6: ほんとに。ちょっと

35JF9: 誰ですか

36JF6: =今度幹部になるって聞きました。 女の子なんです

37JF9: あーあ! hhhh えっ? Mちゃん? あーあ

38JF6: =けど、MとN MとN

<中略: 共通の知人NとMの話が続く>

39JF9:

40JF6: そうかグリーンしか知らないのにすごい偶然だなhhh

41JF9: うーんあーMちゃんそー 幹部なるとか

42JF6: ええええ 幹部なる

<2③井の頭公園での練習> 共通の話題領域

42JF9: あたし2年生までは、すごい出てー()

44JF6:

<2 サークル③井の頭公園での練習> <2 サークル④グリーン
のダンスパーティー>と共通の話題領域で会話は続いていく。

くことである。これは二人の話題が共通領域に入ってくるためであろう。どちらかの話者の話題領域への一方的な関わりでは、情報提示が話し手から聞き手へと一方的に行われる可能性が大きいが、共通領域に属する話題をめぐり発話が交わされる場合は、情報の流れが双方向的になり、したがって、一つの

話題に関わる時間も長く、発話量も多くなると考えられる。

3・2 話題転換が起こらない事例

先に触れた「会話例1」と同様に、次の「会話例5」も同様に話題転換が起こらなかった事例である。「会話例5」

(1) 話題の終了部・展開部

先の「会話例1」では、話題を導入しようとした話者の試みは、受け手が先行話題に結びつける表現を用いたため、成功せず、話題が先行話題と結束性を持つ話題領域に引き戻されていた。この「会話例5」では、「サークルを尋ねる質問」をした話者が、この質問が先行話題を継続するための質問であったことを表現する。

先行話題で共通の知人について確認した二人は、それを「けっこうたくさんいるよねえー (01JF8)」 「うんけっこういる (02JF4)」と感想を交し合う。JF8の「クラブとか入ってたの? (・) 部活動で (07JF8)」はこれまで見てきた「会話例2・3・4」のように新たな話題導入になりうる表現である。ところが、JF8は、JF4の「剣道部だったのね (10JF4)」という答えを展開せず、「あそうか。じゃ知らないか (09JF8)」と言うに留める。この表現から、JF8の「クラブとか入ってたの? (・) 部活動で (07JF8)」という質問は、知り合いがいないかどうかを探る情報を得るための質問であり、「共通点をめざした質問」(小田切, ibid. 参照) であると言えよう。

二人は再び「けっこうたくさんいるよね (13JF8)」 「うんそうだね毎年100人とか行くからね (16JF4)」と先行話題に戻り、感想を交わすことで、同意し、「共通の知人」という大話題が終結されていく。なお、この終了部の対話表現は、先行話題の冒頭で見られた「けっこうたくさんいるよねえー (01JF8)」 「うんけっこういる (02JF4)」という発話と対になり、それが再び繰り返される形式をとっている。共話が繰り返されて話題は終了し、その後「2 出身」「3 割り込み話題」「4 大学生活の時間」と会話が進められる。

(2) 話題の話者領域

共通の知人がいるかどうかを確かめ合う具体的な共通の話題領域から、「18JF4: えっ高校はどこだったの」という表現でJF8側の領域である出身地福岡の話題が導入されるが、あまり話が展開せず、話題が終了する。JF8が現場指示話題を導入し、大学生

活の感想という共通話題に向かう。この会話では共通話題領域が、やや意味の共有のしやすい具体例「共通の知人」をあげる話題、もっとも意味の共有がしやすい現場指示の話題、曖昧な意味の共有になる感想を示しあう話題(大学生活について)と変化するが、ここにも合意に向かおうとする話者の協働作業が見られる(笹川, 2003, 参照)。

「会話例5」

< 1 先行話題の終了部: 共通の知人の話題 > 共通の話題領域

01JF8: けっこうたくさんいるよねえー

02JF4: うんけっこういる

03JF8: そう1コ下のとかだったら

04JF4: うんW大の法学部とかいったら

05JF8: =知ってるけど うん

06JF4: 1コ下

< 「共通の知人」の話題を展開するための話題導入 >

07JF8: クラブとか入ってたの? (・) 部活動で

08JF4: 部活動でね

09JF8: あそうか じゃ知らないか

10JF4: 剣道部だったのね うん し知らないか

11JF8: なんかテニス部 軟式テニス部とかだった子はいたけど

12JF4: うん

13JF8: うん けっこうたくさんいるよね

14JF4: へえー そうなの

15JF8: あー そっかー

16JF4: うんそうだね毎年100人とか 行くからね うーん

< 2 出身 >

JF8の話題領域

17JF8: あたし福岡

18JF4: えっ高校はどこだったの あっ福岡なんだhhh

19JF8: 出身がhhh そう今一人暮らしで

20JF4: へえーじゃあ一人暮らしなの

21JF8: うん。そうね(・)

22JF4: ふーん

< 3 割り込み話題: 現場指示話題 >

共通の話題領域

23JF8: さっきなんか話した時 すごい傾い話になって

24JF4: ふーん うん

25JF8: だからうん。軽い話しようとか言ってhhhhhあれして

26JF4: hahahahahh

27JF8: なんかさうなんか何話していいかわかんないですよ

28JF4: わかんないよね

29JF8: だから(・)うん うん

30JF4: えっさっきっていうのはあの一

31JF8: そうそうそうそうそう

32JF4: Tさんの時? あーわかんないよね

33JF8: そう初めてだしねuhuhuhuhu そっか(・)

34JF4: いきなりね うんuhuhuhuu (・)うん

35JF8:

36JF4: うん(・)うん(・)uhh(・)	
<4 大学生生活の時間>	共通の話題領域
37JF8: ほんとおつという間ですねhhh	
38JF4: 早いですよね大学	うん

4 話題転換の構造

本稿では「所属するサークルを尋ねる質問」が話題転換にどう影響するかを観察してきたが、ここで話題転換に関わる要因をまとめたい。

(1) 話題の終了部について

先行研究で指摘されたように、話題転換は明確な終了部に続いて起こるものと、終了部が軽く示され、すぐに話題転換が起こるものがあった。そして、次に来る話題が大話題か小話題かは終了部の明確さとは関係せず、むしろ話題導入後の話題展開の過程に関わっていた。また、先行研究では日本人の会話の終了部には沈黙が多いという結果であったが、ここでは沈黙よりも、あいづち、笑い、繰り返し、そして共話という協働作業により合意する形の終結部が観察された。

(2) 話題の導入表現・展開

新しい話題導入の可能性を持った「所属するサークルを尋ねる質問」は、会話のコンテキストによって変化し、様々な話題進行機能を担っていた。したがって、話題導入表現がどのように話題転換を起こすか、その構造をとらえるには、その話題を話者がどう発展させていくかを観察する必要がある。ここでは(A)話題転換が起きた事例と、(B)話題転換が起らなかった事例が見られた。

(A) 話題転換が起きた事例

「会話例2・3」では「サークルの所属を尋ねる質問」が話題転換を起こし、話者の間で話題交換が見られる。「会話例4」でも、この質問は話題転換を起こしているが、この事例では話題は共有話題として発展していく。「会話例2・3」で行われた話題転換はどちらかの話者の領域にある話題であるため、話題交換が必要になったが、「会話例4」は話者の共通領域に属する話題であったため、話題交換が起らなかったと考えられる。話題の話者領域の意識が話題展開に関わってくるのが見てとれる。

(B) 話題転換が起らなかった事例

「会話例1」と「会話例5」では、前者は相手は話題転換を受け入れなかったため、後者は質問者自身が話題転換を目論まなかったために、話題転換が起らなかった。このような場合は、先行話題が終

結していても、先行話題に言及し、再び先行話題に戻り、再度話題の終結が試みられていた。

どちらの場合もWest & Garcia (1988) のいう話題の終結部での協働作業が行われていた。また、これらの事例から話者の話題領域への意識が話題転換に関わっていると考えられる。

(3) 話題領域

今回扱った相手の所属サークルを尋ねる質問は、当然相手側の話題領域に関わるものである。しかし、「会話例4」では共有話題を導入していた。また、新しい話題が導入されてから、その話題がどちらかの話者の領域に属する話題か、共有話題になるか、さらにその話題が具体的な話になるか、一般的な感想のやり取りになるかで、話題展開は大きく変わってくる。まず、片方の話者に関わる話題領域では、情報が伝えられる形で会話が進むが、共有話題では情報が双方向に交わされる。なお、共有される話題領域でも、具体的な情報のやりとりがある場合は、話者は明確に意味の共有を確認できるが、曖昧にしか意味の共有が確認できない場合は、一般的な感想を示し、互いに同意しあう(笹川、2003、参照)。したがって、一つの話題が続く時間は、話者が具体的な情報をやりとりする共有話題に関わる場合に長くなるであろう。

5 おわりに

日常会話では、会話の参加者たちが、何らかの話題を選び、それについて話し、また別の話題を選んで話し続けるという現象が見られる。本稿では、日本人女性の話題転換部に現れる「所属サークルを尋ねる質問」が会話の中でどのように話題と関わっていくかを観察した。先行研究では話題転換は先行話題の終結部と新しい話題の導入表現から考察されることが多いが、同じ言語形式の表現が使われるコンテキストによって様々な機能を担っていくことがわかる。

なお、今回は一つの言語表現と話題転換の関わりに絞って考えてきたが、より多くのコンテキストでの話題転換や話題展開を見ていくことが必要であろう。さらに日本人男性のデータとの比較による性差、異言語文化圏の話者のデータによる異文化コミュニケーション場面の観察などを今後の課題としたい。

<注>

(1) 話段のとらえ方については、ザトラウスキー・ポリマー(1993)、話題展開についてはメイナード

泉子(1993)参照。話題が導入された後に、どのように展開されるかについてメイナード泉子(2005)は「単純テーマ展開パターン」、「共通テーマ展開パターン」、「派生テーマ展開パターン」をあげている。

- (2) 会話データは1998年に東京女性財団の研究費助成によって収録した。本稿で用いた会話データは当時20代の日本人女性9名の対面会話計6組(120分)を用いた。会話の参加者は初対面の日本人女性JF1~JF6とJF7~JF9である。
- (3) 会話における割り込み話題は「会話例5」で見られる現場指示話題(23JF8~36JF4)や会話の修復部などの例があげられる。
- (4) 楊虹(ibid.)は①話題となる事柄を際立たせる表現、②認識の変化を示す表現、③言いよどみ表現、④接続表現、⑤メタ言語表現「話題変わるんですけど」等、⑥呼びかけ表現の6つに分類している。
- (5) 会話データの文字化について記す。発話者の前の数字は会話冒頭からのターンの通し番号である。h 笑い等吐息を示す。h の数は笑い等の長さを示す。(・) 沈黙を示す。? 語尾が上がっていることを示す。= 直後/直前の発話との間に間がないことを示す。

<参考文献>

- メイナード泉子(1993)『会話分析』くろしお出版
- 南不二男(1981)「日常会話の話題の推移—松江テキストを資料として」『方言学論叢』三省堂、Pp.7-112.
- 村上恵・熊取谷哲夫(1995)「談話トピックの結束性と展開構造」『表現研究62』、Pp.101-111.
- 中井陽子(2003)「初対面日本語会話の話題開始部/終了部において用いられる言語的要素」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要16』、Pp.71-95.
- 小田切由香子(1997)「異文化間・男女間コミュニケーションにおける性差—会話開始における話題転換上の特徴」『横浜国立大学留学生センター紀要4号』Pp.42-53
- Polly. Sztatowski (Ed.), 2004 “*Hidden and Open Conflict in Japanese Conversational Interaction*, Tokyo” Kuroasio.
- 笹川洋子(2001)「初対面の話者に対する日本人女性の名乗りの談話方略について」『親和国文』神戸親和女子大学国語国文学会、Pp.233-259
- 笹川洋子(2003)「異文化コミュニケーションの修復部における意味の共有感覚の調整について」『親和国文38号』神戸親和女子大学国語国文学会、Pp190-214

笹川洋子(2004)「異文化コミュニケーション場面における共話」『第6回香港国際日本研究・日本語教育シンポジウム記念論文集』Pp.66-81

West Candace and Garcia angela 1988 ‘Conversational shift work: A study of topical transitions between women and men’ “*SocialProblems 35*”, Pp.551-573.

楊虹(2005)「中日接触場面の話題転換—中国語母語話者に注目して」『言語文化と日本語教育30』、Pp.31-40.

楊虹(2005)「日本語母語場面の会話に見られる話題開始表現」『人間文化論叢8』Pp.327-336.

ザトラウスキー・ポリー(1993)『日本語の談話の構造分析』くろしお出版